

地域魅力化型「新庄・最上LINKプロジェクト」

■ 山形県立新庄北高等学校

- 創立は1900年
- 基幹校として地域のリーダーを育成
- 普通科5クラス（一般4、探究1）
- 定時制、最上校キャンパス

■ 最上地域

- 1市4町3村
- 地域内に大学、短大なし
- 地域課題の先進地
- 地域と学校との危機感の共有

最上地域・新庄市



少子化・人口流出など地域の課題の解決に向けて

地域の未来を切り開く高い志と能力を持った『人材』を育成する

- ① 探究心と地域の課題を解決する高い能力を持った人材
- ② 郷土に対する誇りを持ち、社会や地域とつながる意欲にあふれる人材
- ③ Society5.0に究容する地域社会の中でAIやデータの力を最大限活用し展開して地域を牽引していく人材



Local area academic inquiry

A. 地域と密着した探究型学習

- A-a 地域理解プログラム / 最上総合支庁等との連携で地域課題を探究
- A-b 「ジモト大学」プロジェクト / 最上8市町村・県が提供するプログラムを体験
- A-c 地域理解発展研究 / 地域をフィールドにした探究課題にチャレンジ
- A-d 研究発表実践 / 探究型学習の成果を活かした進路実現
- A-e 地域系部活動の設置 / 地域連携のフロントランナーになる意欲的な生徒に探究の場を提供

Information communication technology

B. ICT技術の活用

- B-a 地域連携アプリの開発 / スマホを「振り返り」のe-ポートフォリオ化に活用
- B-b 情報リテラシーの醸成 / ビッグデータ・AIを当たり前のもので活用できる生徒の育成

New career education

C. 新しいキャリア教育

- C-a アカデミックインターンシップの取組 / 進学校と地元企業との将来につながる情報交換の推進
- C-b 研究実績の進路指導への活用 / 振り返りデータを用いた新しい高大接続の形の模索

Key to success

D. 成功のカギ「教育課程の開発」

- D-a 「ふるさと科目」の開発と教材開発 / 地域情報のインプットによる探究活動の深化と一般教科への還元
- D-b 学校設定科目「Myエリア・ラーニング」の開発 / 地域での活動(ジモト大学、新庄まつり囃子や山車づくりなど)を単位認定

※研究発表は地域住民等の参加型(ジモトサミット)→地域の総合計画に参画→地域課題解決の経験・地域を牽引する人材の育成

事業の目的

- 地域の未来を切り開く高い志と能力を持った『人財』を育成する
 - ①探究心と地域の課題を解決する高い能力を持った人材
 - ②郷土に対する誇りを持ち、社会や地域とつながる意欲にあふれる人材
 - ③Society5.0に変容する地域社会の中でA I やデータのパ力を最大限活用し展開して地域を牽引していく人材

- 長期的には：地域に人材が戻る「新たな人の流れ」を作り出す

事業の特色

■ ①課題解決型から、地域の可能性発見型へ移行

- 地域のマイナス面（地域に課題ばかり・・・）ではなく、プラス面（今これがある・これができる）に目を向けさせる
- 「地域の頼れる大人」と話し、つながる

■ ②地域との連携体制

- 「新庄・最上ジモト大学」発足から続く官民協働体制
 - ◆ 一般社団法人とらいあ
 - ◆ 最上総合支庁（県の現地機関）総務課連携支援室

特色①の例 総合的な探究の時間（1年次）

■ 探究スキルトレーニング（1学期）個人活動

- スキルの練習を地域を題材に
 - ◆ 地域にあるもの自慢→もっとよくするアイデア

■ 地域理解プログラム（2・3学期）グループ活動

- 地域について本気で考えている大人と対等に話ができる
 - ◆ 地域にあるものの写真を撮影→わかることの整理・分析
 - ◆ やってみたいこと（地域活性化・困りごとの解消など）を考える
 - ◆ 地域の大人の方にプレゼン



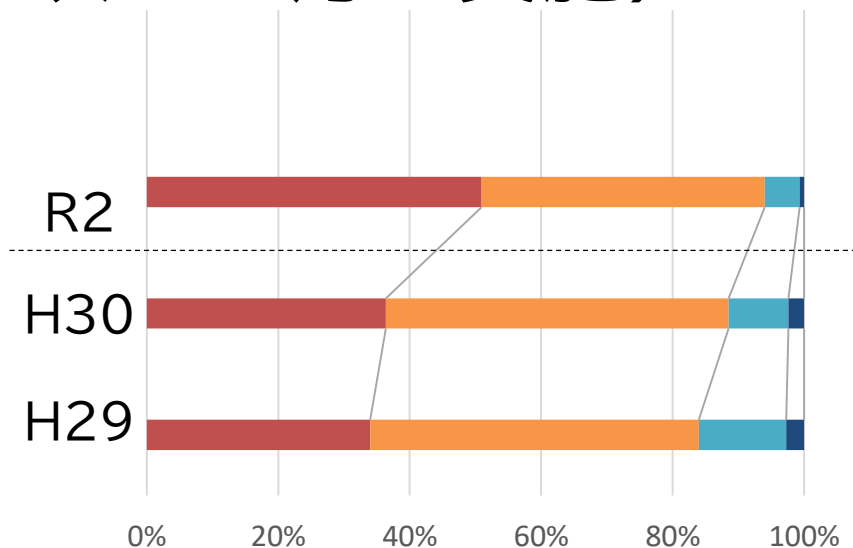
左：10月
下：2月



評価アンケートから（1年次の2月に実施）

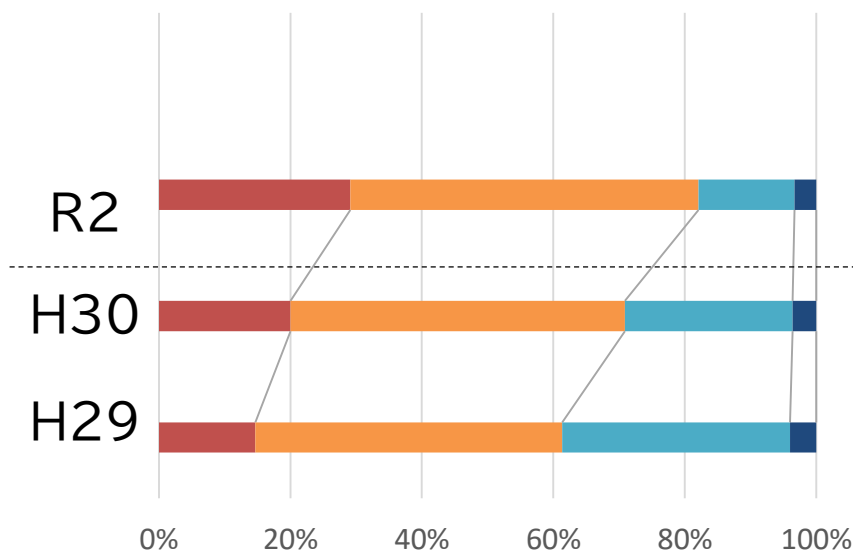
- 地域の大人との関わりが、考えを大きく変えると思う。

	H29	H30	R2
[1]とても	34.0%	36.4%	51.0%
[2]少し	50.0%	52.1%	43.1%
[3]あまり	13.3%	9.1%	5.3%
[4]全く	2.7%	2.4%	0.7%



- 自分の生活と地域の活動が関係していると思う。

	H29	H30	R2
[1]とても	14.7%	20.0%	29.1%
[2]少し	46.7%	50.9%	53.0%
[3]あまり	34.7%	25.5%	14.6%
[4]全く	4.0%	3.6%	3.3%



特色②の例 地域との協働体制



■ 新庄・最上ジモト大学(2017~)

- 県の現地機関、最上総合支庁を核として最上地域8市町村がそれぞれの特性を生かし、高校生に地元の魅力を体験できるプログラムを実施
- 「一般社団法人とらいあ」との協働事務局体制
- 年々発展：高校生自らが企画運営するプログラム登場、2020~オンライン講座の開始、2021~新しく参画する市 など

	2017	2018	2019	2020	2021
講座数	12	21	32	32	36
参加人数	244	418	540	587	

協働体制の広がり

■ 事業の他の活動

- 地域系部活動「地域探究部」
- 学校設定科目「ふるさと探究」

■ 派生した活動・周知

- 県外高校の職員研修会の依頼
- 地域の中学校の総学の授業依頼
- 近隣の小学校への訪問
- 県内大学生との交流

新庄北高校 地域探究部の1年

《地域探究部とは》

「今ここにあることを生かす」「社会とのつながりを持つ」
「経験したことを言葉にして表現する」の3つを理念に掲げた部活動。
地域の方々と協力し、課題解決に取り組み、地域の活性化や新たな価値創造を目指す。

月	やったこと	内容
4月	新入生歓迎会	・新規部員獲得のため新入生歓迎会でPR
5月	山菜料理考案	・地元の山菜を使ってPR動画を作成
6月	個人研究	・個人の興味、関心をテーマに探究活動
7月	地産地消弁当メニュー考案	・地元食材を使って弁当メニューを考案
8月	地産地消弁当メニュー試作 文化祭展示	・地元食材を使って実際に料理実食 ・活動記録や個人研究、PR動画の展示
9月	コワーキングスペース調査	・ゆめりあにあるコワーキングスペースの使用状況の
10月	まちとしょステーション	・ジモト大学のプログラムへの参加
11月	県発表準備	・県発表の発表ポスター



たったひとつの伝えたいこと

「これだけは伝えたい！」ことを
はっきりさせよう。



- ・話したいことが話せなかった……ことがなくなります。
- ・どんな風に伝えようかな……と、考えやすくなります。

事業が終わっても、活動を持続するために

- 0～1年目：広げる→2～3年目：畳む・つなげる
 - 1年目の準備と地域の協力で、
2年目はコロナ禍でも8割方の活動
 - 3年目は、事業終了後の継続を見越した実践へ
(役割分担の強化、プロジェクトチームの再編)
 - 校内については、大がかりのものより真似しやすいもの
- この3年間は、布石（囲碁の序盤）という意識で
 - 完成形ではなく、取捨選択する必要あり